

みんなとともに笑顔いっぱい — 「学びあい」「認めあい」「高めあい」 —



みんなとともに



「学校だより」の“最終号”をいつにするかを考えていましたが、「第50号（3月18日発行）」にすることにしました。“あと3号”となりますが、お付き合いをよろしく申し上げます。学校の行動様式「レベル3」は3月6日まで延長となりました。願いは、第6波が収束して「まん延防止等重点措置」が終了し、6年生の「感謝の会」と「卒業式」を予定どおり行い、よき思い出にしてもらうことです。



創立102周年の「創立記念日」にあたって

「創立百周年」と唱えていたのが、“つい先日”のように感じますが、それから2年の月日が流れました。本校の歴史をまとめたものとしては、50周年の際の記念誌「福島市清明学区の歴史」と、100周年の際の記念誌「笑顔いっぱい」があります。その中から、「校歌」「校章」「校舎」についてまとめてみました。

【校歌】

旧 「旧校歌」は、2つある。「昭和9年2月2日」にできたものと、「昭和31年2月11日」にできたものである。

最初の校歌は3番まであり、それぞれの終わりの文言は「われら山の子 吾妻の子」「われら水の子 須川の子」「われら神の子 日本の子」である。

2番目の校歌は2番まであり、終わりの文言はそれぞれ、「力のかぎり はげむのだ」「力のかぎり 学ぶのだ」である。

新 「現在の校歌」は、「昭和37年5月3日」に披露されている。作詞作曲をした「遊佐直司」氏は、本校の卒業生で、「古関裕而」氏の弟子である。保護者の方の弟であったので、願いをして作っていただいた。小学校時代を懐かしんで、何度も作り直してくださったそうである。

【校章】

旧 「旧校章」は開校と同時にできたらしい。初代の「柏村幸太郎校長」のデザインで「鈴鏡」と名付けられた。「亀（カメ）」の形に似ていたので、「亀の子の紋」と呼ばれていた。

新 「現在の校章」は、校名に込められた「子どもが清く明るく成長すること」を願い、「清明」の2文字に、「小」の文字を「三葉」でかたどったものとなった。

「三葉」が上方や左右に伸びる様は、「子どもたちが強く勢いよく伸びゆくこと」を表現している。

【校舎】

旧 「旧校舎」は、木造校舎で古材を使って急造したものであった。「五小」時代の校舎の通称は「うなぎの寝床」であった。二階建て、平屋、そこから長廊下を通して階段を下ると、また二階建て講堂と、「なかなか」と続いていた。

新 「南校舎」は、福島市の公立学校で最初の鉄筋校舎の建築であった。その後「北校舎」ができたが、「中校舎」を造るときに予算が足りず“平屋”になりそうだった。保護者の方が、毎朝市長に陳情をして、一階部分を“吹き抜け”にした校舎が出来上がった。

* 「2学級 118名」で始まった本校は、最大で「27学級」「1360名」の時を経て、現在「170名」となっています。また、卒業生は「鈴鏡」への思いが強く、校名改称で「鈴鏡小学校」という案が有力だったということを知りました。長い歴史に触れ、感慨深い思いがします。

【校長のつぶやき】 その110 「魂の年齢」

「魂（たましい）の年齢」などと言うと、“アヤシイ世界”のように思われてしまうかもしれない。でも常々思うのだが、「人間性、精神性、道徳性などの人間の“内面的世界”においては、子どもより大人の方が優れているとは必ずしも言えないのではないのか」と。

もちろん「学力」や「知識」という面では、これまでの人間の“英知”を大人が子どもに伝えていく必要があるだろう。しかし、仮に「魂」と呼ぶが、生まれた瞬間から私よりも数段上の「魂」をもった子もいるのではないのだろうか。

そう考えると、大切なことは「子どもを力にしない」で、「子どもとともに考える」ことである。時には「子どもから学ぶ」ことで、自分の「魂」が成長することもある。“すごい子ども”はたくさんいるのである。